

平成 29 年度第 1 回石巻市震災復興推進会議 会議録

1 日 時 平成 29 年 7 月 25 日 (火) 18 時～20 時 30 分

2 場 所 石巻市役所 4 階 庁議室

3 出席者

【委員】 15 名 (別紙参照)

【オブザーバー】 宮城復興局石巻支所、宮城県東部地方復興事務所

【当局】 市長、復興担当審議監、復興政策部長、復興政策部次長、
震災伝承推進室長補佐、復興事業部長、半島復興事業部長、
半島拠点整備推進課長、福祉部長、建設部長、
教育委員会事務局長、複合文化施設開設準備室長

4 会議概要

(1) あいさつ (会長)

出来あがってから成功するものは構想段階において緊張感があり厳しい、構想段階で良いと思われ外部に委託して進めたものは出来あがってからが難しいということがいえると思う。本日の会議も緊張感を持って、「これで良いのか。」という視点で議論していただければと思う。夜遅くではあるがよろしく願いたい。

(2) 議事 (報告事項)

ア 主な復興事業の進捗状況について

(資料 1～3 に基づき復興政策課長が説明)

(3) 議事 (意見交換)

ア 複合文化施設の整備について

(資料 4 に基づき複合文化施設開設準備室長が説明)

【委員】

周辺に食事をとれる場所がないためカフェレストラン等の施設について、市民の利便性をどのように考えているか。電気に関して、非常電源の保管といった非常時の体制はどのようになっているのか。

【複合文化開設準備室長】

詳細は今後詰めていくことにしているが、多数利用に耐えられるものにするのは厳しいのではないかとと思われる。カフェを経営するということを踏まえて、身の丈にあった計画にしていけることになる。

非常電源については、重油を使ったディーゼル発電機を設置することとしている。文化財の方の展示室については、電気で空調を調整するつくりとなっており、ディーゼル

発電機が稼動するかぎり供給できるようになっている。

【委員】

カフェに厨房は入るのか。

【複合文化開設準備室長】

入ることとなっている。

【委員】

エントランスの要望として、野外ライブを実施したいという希望があった。また旧6町からは、祭りを複数のチームが一緒に行える場がほしいという意見がある。野外の植栽、ベンチの配置は野外ライブ等を想定したものか。

ギャラリーとホワイエは移動式の壁でつなぐ事ができるような構造となっているが、ホワイエと小ホールも以前は同様につなぐ事ができるようになっていたと思う。しかし今回の設計を見る限りそうはなっていない。ホワイエと小ホールがつながるような設計にならなかったのには、何か事情があるのか。

【複合文化開設準備室長】

野外ライブ等について近隣に民家があるので、どの程度対応可能か考える。植栽やベンチの配置は実施設計の中で検討していく。

小ホールでは大きな音が出ることや空調等の関係から、小ホールとホワイエの間に二重扉を設ける計画となっている。劇場となると法規制や利用形態の問題があることから、どこまでできるか実施設計で検討していく。

【会長】

ワークショップでの意見や、技術的及びコスト的な面も踏まえて調整されたオープンな施設になっている。具体的にどう使うのかイメージを持つとやりやすいと思うので、ワークショップ等で具体的な活用方法について意見をいただき、設計にフィードバックしていく必要がある。

【委員】

概・7で見ると、練習室だけでなく研修室も防音室となれば、仕切って2部屋として使ったり、つなげて小ライブを行ったりができると思うが実現は可能か。

【複合文化開設準備室】

今のところ稼働率をあげるため、行事は小ホールを使っていたきたい。また防音室はコストがかかるので、現在のところ練習室のみで考えているが、実施設計をしていく中で研修室も防音室に変更となる可能性はある。

【委員】

概・6で男子トイレが少ないように思われるが。

【複合文化開設準備室長】

市でも男性用小便器を増やす方向で検討していたところである。

【委員】

文化施設にカフェスペースがあると良い。

【委員】

運用の際、必要なものが全て揃っているか、バリアフリーが行き届いているかが重要。良い施設だと思う。

【会長】

運営をどのようにまわしていくかが重要なポイントである。

【複合文化開設準備室長】

博物館、学芸部門は市の直営で行ない、それ以外は指定管理とする予定である。指定管理者は、芸術文化振興財団にお願いする可能性が高い。早く方針を示して、充実した運営になるよう努めたい。

【委員】

企画・展示も市の直営か。

【複合文化開設準備室】

市の学芸員による企画・展示がメインとなる。400㎡でやれる巡回展があるかどうかによる。

【会長】

萬画館等もあるので、総合的にマネジメントしていければ良い。企画はもっとオープンに、せっかくの施設をうまく使えるようにお願いしたい。

【委員】

エレベーターの配置と大きさの設定の計算式はあるのか。高齢者等は考慮されているか。また音響、照明等予算が足りないとならないように頑張ってもらいたい。

【委員】

障害を持っている方が自分で移動できるような設計になっているのか。

【複合文化開設準備室長】

1階はフラットな床になっており、福祉の街づくりを基準にし、なるべくバリアがないように目指している。多目的トイレは各階なるべく多く設置するようにしている。エレベーター業者が計算したうえで計画している。

イ 石巻市震災伝承計画及び震災遺構整備方針について

(資料5に基づき震災伝承推進室長補佐が説明)

【委員】

石巻市だからこそ伝えられることがたくさんあり、南浜つなぐ館は重要な存在である。防災フォーラムの内容を再検討し、本当に風化しない、防災意識が薄れることがないような内容にしてほしい。地域住民が防災訓練や防災フォーラムに参加しないといった状況もある。人を集めることが重要なのか、伝承していくことが重要なのか、防災フォーラムのあり方を踏まえたうえで、きちんと話し合って基本理念を深めていくべき。

【復興政策部長】

どう伝承するか、防災意識の向上は地道な長い戦いになるが、とても重要なことであると認識している。伝承部分に関しては、伝承計画をベースに支援組織や地域単位でど

うするかを本年度取り組んでいきたい。

【委員】

伝えていく内容を継続できるのか。語り部が高齢化していくなかで、その語り部が主体的に管理しながら進めていけるのか。マネジメント力の問題があるので、震災後に入ってきたスキルの高い人を活用していくことが伝承を継続するには欠かせないと思う。また、体制についても長い目線をもって物事を考え、仕組みを作っていくことが求められる。

そして、資金の継続も重要な問題。民間企業の力を借りて基金を募るなど考えていかないといけない。伝えるための基金作りを早く取り組むべき。

【復興政策部次長】

継続的に行っていくことに関する重要性は認識している。広島の場合をとって考えても、被爆者が高齢化しており、どう伝えていくかが課題となっている。実際被災した人と外部から入って来た人が上手く連動していく仕組みや、こういった方を取り込んで伝承組織を作っていくのかについて、計画の「4 震災伝承の実現化方策」に定めており、中間支援組織を効率的に運営していく方法を検討していく。行政として維持管理をし、中間支援組織を支えていく中で予算化は必要となってくる。また永続的に行うには中間支援組織を自走できるしくみを合わせて検討していく必要がある。

【委員】

大川小に汚れ（カビ）がでてきた。校舎を末永く残すためにも、コンクリートが水を吸わないように、シーラー処理が必要だと思う。

【復興政策部次長】

大川小、門脇小のどちらもコンクリート建造物であることから、雨水対策が重要となってくる。原爆ドームの雨水対策の情報をもらいながら検討しているところである。原爆ドームの担当者からはシーラーはおすすめしないとの意見をいただいております。基本設計の中で検討していきたい。また、大川小について一部渡り廊下が倒れている状態なので、最低限の支える措置についても基本設計に反映していきたい

【委員】

伝承する時に、具体的な防災の対策についても同時に発信し、安心して子育てができることをメッセージにのせることも大事であると考えている。

【委員】

市内には133箇所の仮設住宅があり、場所によって様々な運営をしてきている。それら避難所、仮設住宅でどのように過ごしてきたかについて6年間の記録の保存も行なってほしい。また神戸にある「人と防災未来センター」のような総合的に伝承する施設がほしい。

【復興政策部次長】

自治会設置に至るまでの資料等重要なものであると認識しているので、担当より後日連絡する。

【委員】

被災企業人としては、新税を集められる仕組みを市として作り、防災伝承に使う財源のひとつとして考えるのもよいのではないかと。

【委員】

様々な仮設住宅があるので、それらを比較整理し、模型やジオラマで展示する場があればと考えたこともある。

【復興政策部次長】

門脇小学校校舎だけでなく、特別教室の活用の仕方として、今の意見を反映させるかたちで考えていきたい。

ウ 半島拠点地区整備事業について

(資料6に基づき半島拠点整備推進課長が説明)

【委員】

北上地域が特に買物難民地区になってしまう。小さい店でも誘致して配置できるスペースがないように思われる。高齢化が進むなかで厳しい状況である。防集地域にも商業スペースが必要なのではないかと。

【半島復興事業部長】

ご指摘そのとおりである。既存の施設をうまく使えないか等地元説明する段階で、どのようにしていくか相談しながら拠点の整備に取り組んでいきたい。

【委員】

鮎川の現場は非常に動きだした。防潮堤の整備も進められてきている。市事業と県事業が連動して工程どおりに頑張ってもらってほしい。

【半島拠点整備推進課長】

複数事業の調整が重要となっている。県と定期的に課題やスケジュールの調整をしている。また、拠点の建物についても、目標の時期まで、総合支所と連携しながら設計段階で調整しつつ、よりよい施設にできるよう努めていく。

【委員】

雄勝拠点にテナントの出店を予定している。今週28日にテナント関係の打合せ会があるが、家賃を払って採算がとれるか不安なため決定しかねている。人口が4分の1しか戻らず高齢化も進むので、採算が合わず営業をやめてしまうなど不安が大きい。防集団地においても、店舗兼住宅を割り当てられても、防潮堤の工事で埃だらけになり営業にならないのではないかと不安という不安しかない。

【半島復興事業部長】

28日の会議で全てを決定してもらわない必要はない。不安や意見を集約する会議にしていく。

【会長】

ポテンシャルをどうつなぐかについて、市と民が協働してやることが求められるのではないかと。

【委員】

皆さんの取り組みに対して、非常に感謝している。

【委員】

半島部のコミュニティについては市内とは若干違い、元々の地域の人で形成されていると思う。高台移転の買物については、コミュニティの中で助け合いができれば一番良いと思うので、コミュニティの再構築が必要。

(4) その他

【委員】

複合文化施設を会社の研修で使用できるか。使用料はどうか。施設使用にあたり規制あるか。

【複合文化開設準備室】

運営については現在検討中であるが、使用料についてはビックバン、遊楽館とそれほど変わらない金額となると思う。規制に関しては文化施設なので、基本どなたでも使えると考えてもらってよい。

【委員】

仮設住宅や復興住宅へ移り住む中で、町内会の設置や自治会の形成なども行なわれ、人々の心の動きや自分の感じたこと、頑張ってきた人の経過を何かの形に残したい。

【委員】

かわまち交流センターについて一般公募をして指定管理をするのか、透明性のあるものなのか。仮設の集約状況と防犯対策はどのようになっているのか。なかなか若者の就労率があがらない現状があるため、地元若者の就労支援策についてと、子育て世代や介護世代の女性向け就労支援策について、きちんと考えられているのか。企業家の支援に関して、支援を受けて創業した企業の現状を把握できる政策等は考えられているのか。

【福祉部長】

仮設の集約については、自立再建促進プログラムに基づいてすすめている。撤去完了22箇所、まもなく撤去するが4箇所。今年9月には56箇所撤去する予定となっている。また、先日渡波の仮設住宅で、給湯器が6台盗まれるということがあった。警察と協議し、社協さんの見守りなどできる範囲で防犯対策していくこととしている。

【復興政策部長】

かわまち交流センターは事業計画のとおり、一定の形で選定が行われる予定である。就労対策としては、政策コンテスト等で若い方の意見を聞く機会も設けられている。若い方が地元に着住するという部分は、職場や進学の問題がある。そのため、介護世代の人手不足の解消として定住政策、I・Uターンの政策をどう取り組んでいくかが課題である。企業支援の団体同士の交流という点では、ローカルベンチャーの取組における模索のなかでニーズの把握など研究が必要である。

(5) あいさつ（副会長）

本日は、長時間にわたって貴重なご意見をいただきありがとうございました。

私のほうから3点お話させていただく。まず1点目として、ひとつひとつ膨大な事業量であると思うと同時に、資料の裏に隠れている氷山の水面下の大きさを想像した時に、本当にすごいことを6年やってきたと感じている。もう一息なので、皆で力を合わせて頑張っていきたい。

2点目として、これだけ頑張っていることを市民がどれくらい理解しているのか。石巻が目指している方向についてもっと市民に知らせる必要があるように思う。それと同時に横の連携（商業施設のオープンに合わせ、周辺施設の整備を完了させる等）を密にしていけば、より動きのある町になる。

3点目として、市民を巻き込む。市民のすべての声をそのまま反映すれば良いというわけではないが、是々非々の立場でより多くの市民の声を聞きながら事業を進めていくことが重要であると思う。ハード面がだいぶ整っているので、それを市民がどう活用するか、自分たちが住みよい町をどう作っていくかが、これからの課題となってくる。